

令和3年度自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 「地域探究の時間」の発展・充実
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今年度の重点目標	1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく ①進路目標の明確化 ②基礎学力の向上 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく ①基本的な生活習慣の確立 ②生徒会活動・部活動の充実 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく ①学校行事・学級活動の充実 ②安全意識・安全技術の向上 4 「地域探究の時間」の発展・充実 5 業務改善の取組の推進 ①業務の精選と組織的な実施 ②生徒への適切な対応
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [70%程度] C:変化の兆し [50%程度] D:まだ不十分 [35%程度] E:目標・方策の見直し [20%以下]

年 度 当 初				評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和2年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	○キャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 <指標> 1年:全員が具体的な進路目標を1つ以上掲げる。 2年:3つ以上の進路候補について比較・調査を行う。 3年:具体的な進路先について志望理由書を完成させ、進路実現する。	○入学当初は進路目標が不明確な生徒が目立つが、総合的な探究の時間(地域探究や進路探究)を通して進路目標が明確になる生徒が増える一方で、進路目標が明確にならない生徒が若干見られる。 ○進路目標が明確な生徒でも、進路目標を実現するための具体的な活動が取り組みができない生徒が一部に見られる。 ○3年次になると、主体的に志望理由書を完成させる生徒が多いが、面接練習に消極的な生徒も見られる。	○「総合的な探究の時間」を見直すとともに、学習後の振り返りを通して自己理解を促し、将来の目標設定につながる活動となるよう努める。 ○進路志望調査の回数を増やし、生徒一人ひとりの進路志望の変化を把握し、面接週間における面接を通して進路目標を明確にするよう指導する。 ○学年会や進路検討会を通して、生徒一人ひとりの模試成績や学習状況を踏まえ、適正な進路目標をアドバイスできるよう努める。		
	基礎学力の向上	○どの生徒も授業を大切にし、主体的に授業に取組んでいる。 <指標> 1年:到達度テストの結果をもとに指示したスタディサプリに60%以上が取り組む。 2年:家庭学習を平日1時間、休日2時間行う生徒が60%以上となる。 3年:スタディサポートでDゾーンの生徒が40%以下となる。	○落ち着いた授業に取り組む生徒が多い中、学ぶ意義が見いだせない生徒が一部に見られる。 ○授業の予習・復習の取り組みが不十分なために、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が目立つが、課題等の提出率は比較的高い。 ○考査に向けて前向きに取り組む生徒が多いが、遅進者指導を行っても成果の出づらい生徒も見られる。 ○模試の活用目的が理解できず、模試に対する取り組みが甘い生徒が見られる一方で、支援をすれば意欲的に取り組む生徒も見られる。 <R2実績> 1年:実績なし 2年:家庭学習平均時間 平日25分、休日51分。 3年:実績なし	○授業第一主義を説諭するとともに、総合的な探究の時間の振り返りを通して学習意欲を喚起する中で、授業を通して教科書の基礎・基本の徹底を図る。 ○教科会や学年会で日頃の授業の状況を共有し、学ぶ雰囲気醸成に努める。 ○スタディサポートの課題の取り組みやスタディサプリの課題や動画・確認テストを計画的に配信することを通して、家庭で学習する習慣付けと弱点の補強に努める。 ○考査を通して、日頃の授業の理解と定着度を生徒自身に把握させるとともに、授業の振り返りと改善を行う。		
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	基本的な生活習慣の確立	○より高い生活習慣及びマナーやモラルを身につけて落ち着いて生活できている。 <指標> ・年間遅刻者数(正当な理由・連絡がある者を除く)が生徒数の70%以下となる。 ・頭髪・服装指導対象者数、問題行動指導対象者数が前年度よりも減少している。	○昨年度は、遅刻指導や服装指導を行う場面が多かった。今年度は、家庭連絡を行い、基本的な生活習慣の確立・遅刻の減少・授業規律・服装容儀・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取組もうとしている。 ○教室内の整理・整頓は生徒会の協力もあり、実施できている。 <R2実績> ・年間遅刻者数(正当な理由・連絡がある者を除く)は生徒数の80%。 ・頭髪・服装指導対象者数(実績なし)、問題行動指導対象者数(22件42名)	○5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ○遅刻・服装・不要物など各指導票を活用する。同時に家庭連絡を入れる。 ○教室や公共の場所からの私物の撤去及び整理整頓を徹底する。 ○基礎・基本の徹底等、SHRなどでのタイムリーな指導をする。		
	生徒会活動・部活動の充実	○どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。 ○志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身につけている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。体育コースの生徒は、講演会や講習会を通して、トップアスリートを目指す意識レベルを高めている。 <指標> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・県大会優勝6部以上、全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ150名以上となる。	○わずかだが興味を示さず人任せになる生徒がいる。執行部員、実行委員はリーダーシップを発揮できるようにしてきたが企画運営の部分が弱い。 ○部活加入率1年99%、2年76%、3年87%。2年の加入率が低い。また、運動部80名に対し文化部は2名である。 ○昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全国大会等が中止になり、出場機会が少なかった。 ○体育コースの上級学校進学者は20名あるが、そのうち競技を継続する生徒は10名であった。 <R2実績> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて83%。 ・県大会優勝3部、中国大会優勝1部、全国大会出場資格取得2部、全国大会出場(リモート含む)6部、全国大会出場者数(リモート含む)67名	○行事におけるクラス内での係りの仕事を共有できるようクラスに提案する。 ○新聞部発行の新聞にコーナーを作ったり掲示板及び掲示物で目的を全校生徒に伝えるための工夫をする。 ○担任を通し部活未加入者にボランティアなど参加するよう促してもらおう。 ○高校で競技を終えることのないよう、更なる可能性を見出す指導と高い志の育成、将来指導者となる人材の育成を行う。 ○スポーツ・文化芸術活動重点校として、体育コースの取組である「各種講演会・講習会」を通し、競技力の向上に繋げていく。		

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和2年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・学級活動の充実	<p>○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。</p> <p>○体育コースの生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。</p> <p><指標> 生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」で評価AとB合わせて90%以上となる。</p>	<p>○部活動中心または、自己中心的な生徒がおり、全員参加で、ともに協力し全員で行事を作り上げることが出来ていない。</p> <p>○体育コースの生徒が、部活動の面でリーダー的な役割を果たしている。学校生活においてもリーダー的な役割を果たしていく必要がある。</p> <p>○昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、「講演会」が実施できなかった。また、「各種実習」も宿泊の制限があった。</p> <p><R2実績> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができている」で評価AとB合わせて91%。</p>	<p>○育英祭などクラスの運営委員にクラス全員で協力できるような方法を説明する。</p> <p>○「各種実習」を実施し、人間性や協調性を養う。</p> <p>○定期的に体育コース集会を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。</p>			
	安全意識・安全技術の向上	<p>○生徒が安心して学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。</p> <p><指標> 生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。</p>	<p>○体育の授業や部活動で、安全への意識の向上と安全対策の徹底に取り組んでいる。学校生活全般においても事故防止に努め、安全対策の徹底を継続的に図る必要がある。</p> <p>○様々な個性を持った生徒がおり、一人一人の個性に応じた「学び」が保障される必要がある。</p> <p><R2実績> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている」(83%) ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」(79%)</p>	<p>○教職員及び生徒(部活動各部長)対象の救急救命講習を実施し、全員の受講をめざす。</p> <p>○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関する調査」を定期的に実施し、組織的な対応を図る。</p>			
「地域探究の時間」の発展・充実	「地域探究の時間」の発展・充実	<p>○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組み、地域に関する関心が高まっているとともに、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力を身につけている。</p> <p><指標> 1年:「地域探究入門」の事前・事後アンケートで、TMT「地域探究で身につけたい力」の自己評価の高まりが全項目で見られる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、地域貢献に対する志などの高まりが平均して10%以上向上する。 3年:「地域探究」の学びが進路実現につながったと自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。</p>	<p>○1年次は「地域探究入門」を通して、地域への興味関心が地域の資源やその魅力を再考することやテーマ設定の仕方・探究活動を行う上での分析法や資料のまとめ方について意欲的に取り組む生徒が多いが、自己の課題と捉えられない生徒も若干見られる。</p> <p>○2年次はテーマごとのグループに分かれ、探究意欲が高まり、主体的に探究活動に取り組む生徒が多いが、グループ活動がゆえに一部に他人任せにする生徒が見られる。</p> <p>○3年次は2年次の「地域探究」の活動を活かし、進路目標に向かって前向きに取り組む生徒が多いが、進路目標が不明確なまま活かしきれない生徒が若干見られる。</p> <p><R2実績> 1年:実績なし 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、地域貢献に対する志などの高まり 11%向上。 3年:実績なし</p>	<p>○1年次から「キャリアパスポート」の取り組みと合わせて、学習目標の設定や振り返りをさせることで、生徒の視野を広げたり、身につけた力を把握させ、具体的な将来設計を描くよう指導を行う。</p> <p>○年間計画を生徒・教員に周知し、時期・やるべき内容に見通しを立てながら計画的に進める中で、進路志望調査や面接(面接週間)の機会を捉え、進路実現に向けた具体的な取り組みができるよう指導を行う。</p> <p>○生徒が身につけた力について、SMT(※)で確認しながら指導・改善を行う。 ※SMT:進路探究で身につけたい力 S M T</p>			
業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	<p>○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。</p> <p><指標> 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。</p>	<p>○部活動においては、昨年度前半は新型コロナウイルス感染症の影響により活動自体できなかったり、大会が中止されたりしたため、時間外勤務の時間が随分縮減された。</p> <p>○放課後の学習会やPTA関係の会、土日の出張等、可能な限り振替対応をした。</p> <p><R2実績> 年間の時間外業務360時間を超えている教職員は2割程度。(令和元年度より約1割減)</p>	<p>○部活動の年間計画及び月間計画の見直しを各が行うとともに、日ごろから生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会をもつなどして、活動の効率化を図る。</p> <p>○各課委員会のメンバーの見直しをし、会議の効率化を図る。</p> <p>○教職員のシステム入力を徹底し、時間外業務時間を教員自身が認識する。</p>			
	生徒への適切な対応	<p>○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。</p> <p><指標> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度の半数以下となる。</p>	<p>○進路指導の分掌や3年団、生徒との個別の関わりのある教員を中心とした進路指導(教科・面接指導等)を行っている。生徒の実態を考えると、面接や志望理由書など、ある程度教職員の手入れをせざるを得ない状況であり、かなりの時間を費やしている。見方をかえると、取組の主体が教職員となっており、生徒が教職員に依存しきっていると見える。</p> <p><R2実績> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の延べ数 33人</p>	<p>○3年生の進路指導(個別指導)の組織的に行う体制作りに向けて、小論文や面接に関する教員研修を行う。</p> <p>○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにする。</p>			